

39. 社会的に孤立しがちな人たちを一人にさせない場所作り

グループ名 サロン AB カフェ

代表者 吉田 久美子

① 活動の目的

京都市中京区東部地域では独居高齢者や、マンションの増加に伴って子育て中の母親が子どもと引きこもっている実態が見うけられる。「ちょっとお茶を飲んで喋る」目的で外に出るきっかけ作りになりたい。

障害がある人やコミュニケーションの苦手な人が運営を手伝える場所作りも目指している。

② 活動概要

1. コミュニティカフェスペース運営

開催日：毎週（金）（土）（日）（月）

誰もが気軽に立ち寄れるコミュニティカフェを運営した。

壁面を使用し、季節感を活かしたギャラリーを開催した。

近隣の障害者施設に案内をし、スペースを利用してもらった。

障害者施設の授産製品である菓子を購入し、カフェで活用した。

コミュニケーションが苦手な引きこもりを体験する若者を店員として受け容れた。当初は緊張しつつも、働くことを通して役割を持つ喜びが感じられたようで、笑顔と自信の回復に繋がった。



2. 音楽イベント

開催日：10/26、12/24、3/29、4/7、4/8、5/13、7/14、7/15、7/16、7/21、8/11、9/9

- ・ 自閉症の青年のピアノの会 12/24、4/8
- ・ BGM ピアノと皆で唄う会 10/26、4/7
- ・ アンサンブルサンバによる歌の会 3/29
- ・ うたごえカフェ（年4回実施予定） 5/13、9/9
- ・ 祇園祭 BGM（尺八・ピアノ） 7/14、7/15、7/16
- ・ ポリフォニー・歌うカウンセラーのグループ 7/21
- ・ 中途視覚障害者の三線の沖縄音楽「皆で唄い、エイサーを踊る」 8/11



3. 脳若トレーニング

開催日：11/23、2/15

『脳若』は地域のコミュニティに通うことが人と人を繋ぐコミュニティの形成を促し、ひいては「介護予防」になるというコンセプトのトレーニングである。タブレットを用い参加者がアプリを操作して脳を鍛えることに加え、講師とのコミュニケーションを重視するものであり、笑いの絶えない時間となった。タブレットの台数の関係もあり、3名が参加。



4. 落語会

開催日：11/18、6/9

京都大学落語研究会所属の学生による落語会。身近な地域で本格的な落語を体験し、大笑いの楽しい時間となった。終演後には学生と参加者の間で交流をし、話題が尽きなかった。



5. 演劇朗読・絵本

開催日：12/24、1/27、9/2

- ・ 大型絵本の読み聞かせ会 12/24
- ・ 大人向けの演劇朗読会 1/27
- ・ 小さな楽器を使っの絵本朗読会 9/2



* 日々のカフェスペース運営に加え、上記のイベントを通して、地域の子どもから高齢者、障害のある人や引きこもりを体験している人等様々な立場の人たちが集い話すことを目的に活動を行った。参加者・出演者間の交流も促せ、「来てよかった、こんなに笑ったのは久しぶり」「できることが増えてうれしい」等の声も聞かれた。地域の中での誰もが安心して集えるコミュニティ形成に一定の役割を果たすことができたものとする。ただ、いくつかのイベントに関しては、夏場の酷暑もあり、集客力の弱さが難点となったことは否めない。コミュニティカフェとしての役割を如何に発展させるかが今後の課題である。

③ 決算報告書

収 入	大同生命厚生事業団助成金	100,000 円
	運営費	1,640 円
支 出	ボランティア交通費（公共交通機関使用）	82,540 円
	10月 5,400 円	
	11月 5,440 円	
	12月 6,200 円	
	1月 6,420 円	
	2月 5,800 円	
	3月 8,480 円	
	4月 9,040 円	
	5月 8,340 円	
	6月 9,700 円	
	7月 8,120 円	
	8月 9,600 円	
	イベント講師交通費（駐車場合む）	19,100 円
	合 計	101,640 円